

アピール

分け隔てなく、安心して生きられる社会の実現を目指して

「2016年7月26日」、忘れられない日になっています。津久井やまゆり園で
なんの抵抗もできない19人の命が奪われ、26人の障害のある人と職員を傷つ
けました。犯人は元職員でした。

あれから10年がたち、途中の2020年3月には裁判で犯人の死刑が確定しま
した。裁判が終わったのと同時に、事件は封印状態にあります。なぜ犯人は、
障害者は生きていても仕方がないと考えようになったのか、なぜ必要な命と
不要な命を分ける優生思想を抱くようになったのか、何も解明されていません。
やまゆり園事件は終わっていないのです。

私たちは、この事件をきっかけに、分け隔てないインクルーシブな社会をつ
くりたいと強く願ってきました。しかし、実現はほど遠い感じです。障害ゆえ
の不利益や差別はなくなり、**「障害があると大変」「障害があるとかawaiiそう」**
といった優生思想に基づく差別や偏見はなくなりません。

一方で前進もありました。優生保護法裁判です。被害にあった人たちが、勇
気を振り絞って国を訴え、2024年7月、最高裁は「この法律は作った時から憲
法違反だった」として、国による謝罪や反省、補償が進みました。被害にあっ
た人たちの声がまとまって国を動かしたのです。また、2022年9月、国連の障
害者権利委員会は、国に対して優生思想及び非障害者優先主義に厳しく向き合
うとともに、やまゆり園事件の見直しを勧告しました。

私たちは、やまゆり園事件を忘れません。この10年を機に改めて、「何がこ
の事件を引き起こしたのか」に迫り続けます。そして、分け隔てなく、誰もが
安心して暮らせる社会の実現をめざして、みんなで手をつないでいきたいと思
います。

2026年7月23日

JD サマーセミナー 津久井やまゆり園事件十年の節目に 参加者一同